

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立本巣松陽高等学校

学校番号 14

## I 自己評価

1 学校教育目標	学校教育全体を通じて、「知・徳・体」の調和のとれた、人間性豊かでたくましく生きることのできる生徒の育成に取り組む。 ア 学習活動を重視し、自己実現に向けた意欲的な態度の育成 イ 規範意識の確立と豊かな心の育成 ウ 自主・自立の精神の育成		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ○広い視野と確かな学力をもち、自ら見出した課題に、粘り強く取り組むことができる生徒 ○自分の良さや可能性を認識し、コミュニケーション能力を発揮して、多様な人々と協働できる生徒 ○心身の健康を常に心掛け、自律的な生活ができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ○基礎的、基本的な知識、技能を習得させるとともに、地域との連携を大切にして「探究的な学び」を推進 ○すべての教育活動において共感的な人間関係づくりを進めるとともに、「対話を重視した楽しくわかる授業」を推進 ○校内外の活動における主体的な取り組みを支援することで、「自ら考え行動できる力」の育成を推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ○自己実現に向けて、学習に取り組む、何事にも挑戦したいという熱意のある生徒 ○自他を尊重し、人とのつながりを大切にする生徒 ○地域の一員として自覚をもち、自主的な活動に積極的に参加したいという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇「教育課程・学習指導」		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学習指導に関するアンケート項目の「理解を高めようと努力しているか」、「一人一人の能力に応じた指導を行っているか」等の質問に対して、生徒、保護者等ともに「わからない」と回答した割合が昨年度よりも増えている。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業を大切にする。 ◇基礎学力を身に付ける。 ◇学習に向かう姿勢を育む。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・定期的な教科会の開催、教育課程研究会への参加 ・すべての教科による研究授業の実施、教育委員会指導主事による学校訪問の要請 ・授業アンケートの実施と分析、改善のサイクルの確立		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 各教科における観点別評価の研究 (2) 個々による授業改善の推進 (3) 校外の識者（指導主事等）からの客観的な分析やアドバイスの傾聴	(1) 「生徒及び保護者等のアンケート」における肯定的な評価が80%以上となること。 (2) 生徒による「授業評価のアンケート」において、授業の質的向上の実感が得られること。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・すべての教科担任が、「授業評価のアンケート」を前期末と学年末の2回実施し、年度内での変化を分析し、授業改善を図った。 ・観点別評価を実施するにあたり、すべての教員による指導と評価に関する共通理解を推進した。 ・協働的な学びや分野横断的な学びを積極的に取り入れた授業の実践に努めた。	①生徒は授業の内容を積極的に理解し、活用しようとしているか。 ②生徒は家庭学習も含め、学業に真摯に取り組もうとしているか。 ③教員は、生徒の主体的な学習態度を育成するという意識のもと、計画的に日々の授業実践に努めているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
12 成果・課題	○校内外の研修に多くの教員が参加するとともに、すべての教科において研究授業とその研究会を持つことができ、情報を共有し合うことで授業の質的向上を図ることができた。 ○今年度より1年次生においても「総合的な探究の時間」を開講し、年次ごとの活動を明確にすることを通じて、学習システムを確立させた。 ▲自主的な家庭学習の習慣が身に付いている生徒が減ってきている。コロナ禍におけるオンラインによる学習支援等がその習慣の獲得の時期を逸することになっているのではないかと懸念される。		
13 来年度に向けての改善方策	①授業改善の推進、観点別評価の研究に関して、校内での実践交流や校外での研修への参加を引き続き推進する。（ICT機器の活用も含む） ②「総合的な探究の時間」に関して、学習システムの更なる充実と指導体制の確立を図る。 ③感染症予防のために実施できなかった諸活動の再開に向けて、開催方法の工夫及び保護者との連携を促進する。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月31日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・保護者や地域の方々を対象として、学校開放日などを設定する。 ・「夢を見つける」、「夢を育む」、「夢を叶える」という基軸を大切にした学校全体の進路実現のシステムを確立させる。 ・オンラインによる学習支援の工夫や対面授業の改善に関して、生徒一人ひとりの未来に向けて、「本巣松陽高」らしさを模索していくことが重要である。
--